

帝王切開分娩の情報提供のあり方を考えるシンポジウム

女性はいつ、どのような情報を必要としているか？

現在、日本では妊婦の5人に1人が帝王切開で赤ちゃんを出産しています。出産年齢の高齢化やハイリスク妊娠の増加などにより、今後も帝王切開率は増加を続けることが予想されます。母子の身体的なケアが進んでいるのに対し、女性に対する心理的なケアは十分と言えるでしょうか？

帝王切開であっても女性が安心して出産し、自らの出産体験に納得できるためには、適切な情報を得ることが不可欠です。今回、様々な立場のシンポジストからご発表いただき、帝王切開分娩の情報提供のあり方について、皆様と一緒に考えていきたいと思っております。小さなお子さまがいらっしゃる方にもご参加いただけるよう、託児も設けています。お誘いあわせの上、是非ご参加ください。



日時：2015年3月8日(日) 13:00～16:30 (受付12:30～)

場所：中部大学 名古屋キャンパス 6階大ホール

愛知県名古屋市中区千代田5-14-22 TEL:052-243-2077

(JR中央本線「鶴舞」駅名大病院口(北口)下車すぐ、地下鉄「鶴舞」駅下車北へ約100m)

【プログラム】

13:00 開会

13:10-14:00 特別講演「帝王切開分娩に関するトピックと医師による情報提供」

竹内 正人 (東峯婦人クリニック副院長)

<シンポジウム>

*コーディネーター：横手 直美(中部大学 生命健康科学部)

14:10-14:40 「どこに？誰に？わからないことだらけの帝王切開」

細田 恭子 (帝王切開カウンセラー、『くもといっしょに』主宰)

14:40-15:10 「選択的帝王切開の初産婦はどのように情報収集しているか」

竹内 佳寿子(園田学園女子大学 人間健康学部 人間看護学科)

15:10-15:40 「帝王切開を経験した女性の次子の出産選択における情報提供：共有意思決定支援の視点から」

鳥越 郁代 (福岡県立大学 看護学部)

15:50-16:20 ディスカッション

16:30 閉会

*対象：一般の方、医療関係者(助産師、保健師、看護師、医師)、学生 100名(先着順)

*参加費：無料

*託児：有資格者の本学教員と現代教育学部「すくすく隊」の学生がいたします(保険料100円要)。

ご希望の方は、申し込み時に、お子さまの年齢(0歳～小学生まで)、お名前を記入してください。

<お申込み>

2月末日までにE-mailまたはFAX(別紙)でお願いします。

E-mail : info.cs2015@gmail.com FAX : 0568-51-5370 (中部大学 看護実習センター)

※E-mailの場合、①氏名、②所属、③職種、④託児希望の有無を明記して上記に送信してください。

主催：中部大学生命健康科学部保健看護学科 母性看護学領域 後援：中部大学 看護実習センター

※本シンポジウムは、平成26年度科学研究費補助事業(基盤研究C 課題番号24593415)による助成を受けています。